

町民文芸



只見短歌会

三月詠草

大塚栄一 指導

雪除き白菜掘る身に寄りて来し綿虫つかず離れず動く

古川 英子

狭庭辺の梅もほころび遠近の花便り聞き里帰り待つ

吉津 政枝

鈍き痛み薄れてゆくを喜べど娘は曲りそめし背を言ふ

皆川 恒子

落語聞き楽しませむと施設まで姪ら来たりて我を連れ出す

五十嵐英子

時たてば亡き娘を偲ぶ人もなく今日の命日はわれ一人となる

馬場 八智

参拝の伊勢神宮は残雪の里にも似たる冷えし風吹く

目黒 富子

超未熟児に生れし孫は中学の卒業証書を手にし礼言ふ

渡部ゆき子

穿きて来し長靴をズボンに覆ひつつ会津若松の街中歩む

五十嵐夏美

降りしきる雪を炬燵で眺めつつ今年の作付け夫と語らふ

齊藤ちひろ

春休みに子供らの声少なきは少子化時代の影響ならむ

渡部ヨリ子

鴉らに襲はれてゐる家猫を思はず大声出して呼び込む

新国 洋子

(出詠順)

只見俳句会

四月例会

目黒十一 指導

遠山の雪崩や夕日沈み行く

又壺歩

会津野の雪をよごして黄砂降る

隆堂

花馬酔木日ざしに映ゆるホワイトデー

邦夫

盆栽の整枝に惑う木の芽雨

春の月うれし涙を手で拭う

邦夫

辛夷咲くや作を占う父なりし

笑羊

歯に当るグラスの氷冴返る

花柄のテーブル掛けや春きざす

康女

春寒や絵皿時計のうすぼこり

窓先に止まる小鳥や日脚伸ぶ

リウコ

春一番庭に枯枝まき散らし

お彼岸やとろりとみかん糖度増し

都

子雀のじつと聞いているメリーゴーランド

地図を見てカーナビを見て観梅へ

一穂

春の暮寒さの残る格天井

ガラス越し見る種芋の芽出しかな

連翹の今日暮れきれぬ黄色かな

洋子

人影の三々五々の春の磯

敦子

青年と犬まっしくら堅雪野

はだら雪菓立ちゆく子を抱きしめ

礼子

初節句頬をつつけば寝ねて笑み

やわらかき日や水音や初雲雀

修一

久々に妻の懐メロ春炬燵

証書受く指先伸びて卒業式

一灯

一輛車の乗客五人日脚伸ぶ

春の雨ユビソヤナギへたっぷりと

邦男

寄付という文字も優しき雛飾り

階下より歌声あがる雪解風

吉児

紐を編む媪白寿に春うらら

春光や四方固めの福手飛ぶ